

建築版	施工段階	設備工事：  <b>屋上ハト小屋</b>	電気	○	設備工事 ポイントシート  (5-4)	
	5-2		屋上工事	空調		○
				衛生		○
				その他		○

設備や電気の堅配管やダクトはシャフトを通して、最上部では屋上の防水層をハト小屋で立ち上げ、横向きに展開するようにしています。メンテナンス性にも影響する建築と設備の重要な取り合いの一つです。

### ポイント

#### ■ハト小屋とは

- ・設備機器が集中する屋上に、電気配管や設備配管、ダクトなどを防水層を直接貫通せずに立ち上げるために必要な躯体形状の総称をハト小屋といいます。

#### ■検討事項

- ・ハト小屋はコンクリート躯体であり、建築工事での施工となります。
- ・ハト小屋の形状、大きさを決めるのは設備工事の範疇になります。
- ・ハト小屋自体は、大事な屋上の防水層を貫通するので、漏水しない防水の納まりが建築にとって最重要事項となります。設備側の必要寸法をよく打合せし、防水立上がり寸法、点検口の止水方法も勘案して納まりを決めましょう。
- ・設備貫通の方法も様々なので、パネル工法やスリーブでの施工、箱抜きとする方法など、設備も建築も施工しやすい納まりにしましょう。
- ・小型の場合は既成PCの採用による省力化も検討しましょう。



ハト小屋



ハト小屋既製品

### 先輩アドバイス

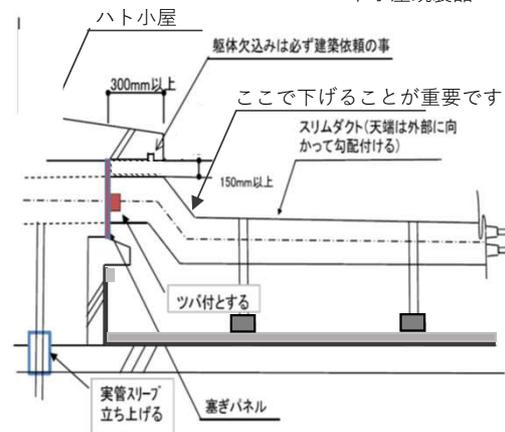
- ・建築担当者は設備担当者と共に、止水処理について検討しましょう。
- ・鋼製枠SD点検口(止水シール共)は、建築工事になります。
- ・止水性能の品質責任の所在を明確にしておきましょう。

### チェック項目

- 詳細の納まりを施工図にて調整済ですか。
- 貫通物に対し大きさ形状に無理はないですか。
- コーキングやシール方法に問題ありませんか。
- 品質責任の所在は明確ですか。

### 失敗すると...

- ・納まりが厳しいと、防水性能が確保できず雨漏りが発生します。
- ・適切なメンテナンス空間が確保されていないと将来の更新性に影響がでます。



冷媒配管の貫通例

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	○	○	-	-	-	-	-	○
備考	参考文献：						初版発行	2020年12月	
							改訂		